

友の会
総会特集

充実の第2年度へ、活動はじまる

増える古文書講座、会報は隔月発行に

～竹内館長記念講演「下町と山の手」～

江戸東京博物館友の会第2回定期総会は、5月21日(火)午後1時半から1階ホールで開催されました。

佐山副会長(事務局長)の進行で始まった総会は、山本会長あいさつの後、来賓の畠中勇さん(東京都歴史文化財団専務理事)と、松本栄一さん(江戸東京博物館副館長)から祝辞をいただきました。

議長団には議長に岩松精さん(事業部会)、副議長に児玉知子さん(総務部会)、書記に菅沼和男さん(広報部会)、黒瀬雅博さん(事業部会)が選出されて、議事に入りました。出席者は362名(出席81名、委任状281名)で、総会時会員数684名の過半数に達し成立しました。

上程議案は以下のとおりです。

- ・平成13年度 事業報告
- ・平成13年度 収支決算報告
- ・平成13年度 監査報告

- ・友の会規約の一部改正案
- ・平成14年度 事業計画案
事業部会・広報部会・総務部会
- ・平成14年度 事業予算案
- ・役員補充選任

議案はすべて可決されましたが、審議で平成13年度収支決算報告、同監査報告、平成14年度事業予算案などについて、出席会員から活発な質疑・提言がありました。(質疑応答要旨は7ページ参照)

平成13年度収支決算書および平成14年度事業予算書などの修正・追加は本号に掲載しました。

総会は予定時刻を30分ほどオーバーして、午後3時半に閉会。休憩をはさんで、竹内館長の記念講演「下町と山の手」に興味深く聴講した後、レストラン・モアに席を移して会員相互の懇親・交流を深めて、午後7時に終了しました。



ハ・イ・ラ・イト

- 5月21日開催の平成14年度定期総会で本年度の事業計画・予算が決まり、活動が本格スタートしました。友の会運営に皆様のご理解とご支援・ご協力をお願いします。
- 第2回総会特集—
13年度 事業報告、決算報告
14年度 事業計画、事業予算など
- 竹内館長 総会記念講演要旨
「下町と山の手」
- 友の会特別内覧会 観覧記
・企画展内覧会「利家とまつ」
- 《事業部会だより》
・7/19 特別内覧会
「古代エジプト展」申込受付中！
・7/30 セミナー「幕府のしくみと変遷」申込受付中！
- 会員優待のお知らせ—
・企画展「発掘された日本列島」
- 会員継続更新の手続きをお願いします。期日までにお払込ください。
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション情報誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお気軽にお寄せください。

◆ ◆ 会員継続更新のお知らせ ◆ ◆

●手続きはお早めに！

友の会は第2年度の活動が始まりました。会員資格は1年間です。まもなく有効期限を迎える方は更新の手続きをお願いします。

該当の皆さんには「継続手続き書類」が郵送されますので、お早めに手続きをお願いいたします。

* 更新しないと、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなります。ご注意ください。

会長あいさつ

参加こそ、活動の原点

友の会会長 山本 市郎



昨年5月の
発足総会から、あつという
間に1年が
過ぎました。

この間、友の
会では各種のセミナーや内覧会、見

学会などいろいろな事業を開催し、
多くの会員のご参加を見ましたことは
誠に喜ばしいことでした。

こうした企画は、事業・広報・総務
の3部会の皆さんが、三位一体になっ
た連携と協力のもとに進められてきま
した。ここにご尽力いただいた方々に
深く感謝する次第です。

さて、今年度は江戸開府400年祭
を間近に控えた大事な年に当たりま
す。江戸東京博物館もさまざまな記
念事業を展開して祝おうとしていま

す。友の会としては独自の活動に加
え、こうした館の事業にも何らかの形
で協力・貢献していきたいと考えてい
ます。

友の会の活動は、参加してこそ初
めて大きな意義や楽しさが生まれま
す。皆さまには、さらに積極的にご参
加いただきたいと願っております。

会員数の拡充も大きな課題で、会
員の方々にはその面でもぜひご力
添えをいただきたいと考えておりま
す。どうぞよろしくお願いいたします。

意義ある初年度の活動成果

— 目的達成をめざし、確かな第一歩 —

(第1号議案)

平成13年度 事業報告

友の会発足の平成13年度(第1期)
は目的の確認、組織の充実、部会間
の連携に努め、実施した事業概要(抜
粋)は以下のとおりです。

■事業部会

事業名	開催回数	参加者数
友の会セミナー	6	301
古文書講座	3	164
創作体験講座	2	55
見学会	1	25
企画展内覧会	3	146
延べ数	15	691

■広報部会

会報は年度中に6号を編集発行。第
5号から『えど友』に誌名改称。会員募
集用チラシ、館ホームページ友の会告
知の内容改訂を進行中です。

■総務部会

総会の準備と運営、事業活動の側
面的支援を実施。会員募集活動の準
備作業、会報・広報印刷物の発送作
業を実施しました。

■その他

会員の現状

・会員数 平成13年4月時点549名、
平成14年3月末現在826名。

・会員構成 別表のとおり

平成13年度 収支決算報告

別表収支決算書のとおり

平成13年度 監査報告

別表監査報告書のとおり

(第2号議案)

友の会規約の一部改正

[2002/5/21改正条項のみ掲載]

(会員の特典)第6条 友の会の会員は
次の特典を受けるものとする。

1 常設展示の観覧料は無料【追加】

2-7 【改正前の条項繰り下げ】

8 (財)東京都歴史文化財団の各施
設での優待【追加】

(役員)第7条 友の会には、以下の役
員を置く。

2 役員は、役員候補選考委員会で
候補者を選考し、総会において選
出する。

(1)選考委員会は事業部、広報部、
総務部の部会員で組織する。

(2)選考委員の員数は9名以内とす
る。

(総会・役員会)第8条

2 総会の決議は、別段の定めがある
場合のほかは、出席した会員の過
半数で決する。

3 役員会は、必要に応じて会長が招
集し、次の事項を審議・決定する。

監査報告書(修正後)

江戸東京博物館友の会規約第7条の7項の規定に基づき、私たち監事は平成13
年4月1日から平成14年3月31日までの平成13年度友の会活動の執行を監査しま
した。その結果以下の通り報告します。

1、監査の方法の概要

監事は、役員会その他重要な会議及び運営委員会から活動の報告を聴取し、重
要な決裁書類等を閲覧し、活動の運営並びに収支に関する会計帳簿・証憑等の
調査を行い、収支決算書類の内容につき検討しました。

2、監査の結果

- (1)事業活動報告は、目的に従い、活動の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2)会計帳簿類は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致して
いるものと認めます。
- (3)収支決算書は会計原則に則り収支の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4)友の会役員の職務遂行に関する不正行為又は、法令もしくは友の会の規約に
違反する事実はありません。

平成14年4月25日

江戸東京博物館友の会

監事 山下 卓 ㊞

監事 佐藤 扶美子 ㊞

平成13年度 収支決算書(修正後)

[平成13年4月1日～平成14年3月31日]

●収入の部

(単位:円)

費目	予算	実績	差異(予算-実績)	備考
会費	2,200,000	3,304,000	△1,104,000	会員数:予算550名、実績826名
賛助会費		1,000	△1,000	会員からの寄付
事業収入		441,200	△441,200	セミナー、講座等の参加費
受取利息		157	△157	
合計	2,200,000	3,746,357	△1,546,357	

●支出の部

	費目	予算	実績	差異(予算-実績)	備考
事務局費用	アルバイト料	204,000	0	204,000	会員のボランティアで対応
	会議費	10,000	0	10,000	
	交通費	20,000	0	20,000	
	切手・ハガキ代	49,500	64,200	△14,700	
	事務用器具備品費	100,000	0	100,000	
	事務用消耗品費	50,000	58,457	△8,457	
	封筒印刷代	138,500	143,325	△4,825	会の封筒印刷代ほか
	印紙代	10,000	0	10,000	
	諸会費	50,000	0	50,000	
	振込手数料	38,500	58,660	△20,160	会費払込料負担金、銀行手数料
	小計	670,500	324,642	345,858	
事業活動費用	会議費	10,000	3,988	6,012	
	講師謝礼・交通費	320,000	328,000	△8,000	
	会報等郵送料	500,500	779,180	△278,680	会報6回累計4303通ほか案内等郵送料
	器具備品費	50,000	29,247	20,753	携帯デジタルレコーダー1台購入
	消耗品費	50,000	295,733	△245,733	体験講座材料・加工代ほか写真・テープ代
	会報印刷費	160,000	121,380	38,620	会報印刷代
	会場設営外部委託費	150,000	0	150,000	
	会議室使用料	132,000	84,250	47,750	セミナー、会議等の室料
	見学会保険料	10,000	0	10,000	
	部会活動助成金	50,000	0	50,000	
	内覧会チケット代金	97,000	94,030	2,970	企画展内覧会ポンペイ展ほか2回
	小計	1,529,500	1,735,808	△206,308	
	費用合計	2,200,000	2,060,450	139,550	
	次年度繰越金	—	1,685,907	△1,685,907	
	合計	2,200,000	3,746,357	△1,546,357	

資産負債書(追加) [平成14年3月31日現在]

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	280,240	前受会費	16,000
普通預金(富士銀行本所支店)	1,390,227	次年度繰越金	1,685,907
郵便振替口座	31,440		
計	1,701,907	計	1,701,907

会員構成 (平成14年3月末現在)

年代	男	女	計	構成比
10代	1	0	1	0.1%
20代	5	13	18	2.2%
30代	22	20	42	5.1%
40代	39	33	72	8.7%
50代	84	70	154	18.6%
60代	160	90	250	30.3%
70代	142	70	212	25.7%
80代	35	8	43	5.2%
90代	0	0	0	0.0%
不明	9	25	34	4.1%
計	497	329	826	100.0%

備品一覧表(追加) (注)資産計上なし [平成14年3月31日現在]

番号	品名	数量	取得年月日	取得金額	備考
1	携帯デジレコーダー	1	平成13.11.12	29,247	東芝製

本年度の事業計画・予算決まる

—積極的な参画で、活発な活動を—

(第3号議案)

平成14年度 事業計画

友の会発足の初年度(平成13年度)は事業活動全般にわたり、博物館から全面的協力を得て事業の展開を図り、運営委員会の3部会会員の積極的な取り組みと活動で、初年度としては順調に立ち上がり、会員数は800名を超えるに至りました。

■基本方針

自主的で、充実した活動に

本年度は初年度の成果と反省を踏まえて、次の事項を基本的な活動方針とします。

1. 会員の要望をより一層吸い上げて事業活動への反映を図り、会員が自覚を持てるような事業活動の充実を図ります。
2. 既会員の継続と新会員の増強を図ります。
3. 博物館からの協力を得ながら、自主的な事業展開を推進する体制をつくります。

4. 計画された事業へ、より多くの会員の積極的な参画を図ります。
5. 会員相互のコミュニケーションを図る機会を設けます。
6. 本年度は当博物館開館10周年、江戸開府400年にあたり、記念事業などに積極的に協力します。

■事業部会

計画的な年度活動の実施

前年度に引き続き、事業活動の基本方針に則して事業を推進します。別表活動計画のとおりです。

■広報部会

ホームページ開設を準備

会報『えど友』の充実を図るとともに、会員募集チラシの制作、独自ホームページの立ち上げなど、友の会の広報活動拡充に尽力します。

1. 会報は年6回、奇数月に発行。
2. 友の会独自のホームページ立ち上げは本年度の課題として積極的に取り組みます。
3. 会員拡大のための募集チラシ制

作は夏までに完成を目指します。
4. 他の歴史系博物館・資料館友の会との交流・情報交換など、事務局と協力して漸進的に推進していきます。

■総務部会

会員増加へPR活動展開

部会の活動目的—総会の運営、組織の充実、広報印刷物の発送など—に基づき、前年度に引き続き、部会員の積極的な参加で友の会活動の充実に努め、事業部会、広報部会との連携強化に尽力します。

1. 第2年目を迎えた本年度は、会員継続の減少傾向に対処して、会員数の増強を図るために、当博物館近隣区居住者に積極的なPR活動を展開して組織充実に努めます。
2. 総会の会場準備と運営ならびに事業活動の側面的サポートを実施します。
3. 会報ならびに広報印刷物の発送作業を随時実施します。

(第4号議案)

平成14年度 事業予算

別表予算書のとおり

●平成14年度 事業活動計画

事業部会、広報部会 2002/5/21現在
(注) 内容は変更になる場合があります。
*は開催日未定

年	月	会報	友の会セミナー/見学会		古文書講座		企画展 特別内覧会	
			開催日	テーマ/コース	入門	初級	開催日	テーマ
平成14 (2002)	4						4/22(月)	利家とまつ 加賀百万石物語 展
	5	※						
	6		6/15(土)	見学会 江戸城めぐり	①6/5(水)	①6/26(水)	6/14(金)	発掘された日本列島2002 展
	7	※	7/30(火)	幕府のしくみと変遷	①7/3(水)	①7/24(水)	7/19(金)	古代エジプト展～永遠の美～
	8							
	9	※	9/27(金)	吉原とは、こんなところです	①9/11(水)	①9/25(水)	9/20(金)	本田宗一郎と井深大 展
	10		10/12(土)	見学会 江戸城 内濠めぐり	② *	② *		
	11	※	*	江戸の水上交通と流通問題	② *	② *		
平成15 (2003)	12				② *	② *		
	1	※	*	武士の給料と生活	③ *	③ *	1/4(土)	(仮称) 大江戸八百八町 展
	2				③ *	③ *		
	3	※	*	明治時代の女子学生	③ *	③ *	3/5(水)	(仮称) 開館10周年特別収蔵品 展

平成14年度 事業予算書(修正後)

[平成14年4月1日～平成15年3月31日]

●収入の部

(単位:円)

費目	13年度実績	14年度予算	増減(予算-実績)	備考
会費	3,304,000	2,804,000	△500,000	継続500名+新規200名=計700名
賛助会費	1,000	0	△1,000	
事業収入	441,200	240,000	△201,200	セミナー、古文書講座、内覧会など参加費
受取利息	157	100	△57	
前年度繰越金	0	1,685,907	1,685,907	
合計	3,746,357	4,730,007	983,650	

●支出の部

	費目	13年度実績	14年度予算	増減(予算-実績)	備考
事務局費用	アルバイト料	0	200,000	200,000	
	会議費	0	20,000	20,000	湯茶代
	交通費	0	10,000	10,000	事務局行動費
	切手・ハガキ代	64,200	100,000	35,800	事務連絡用切手代など
	事務用器具備品費	0	100,000	100,000	PC周辺機器ほか
	事務用消耗品費	58,457	80,000	21,543	事務用品など
	印刷費	143,325	500,000	356,675	封筒、入会申込書、パンフレットなど
	印紙代	0	10,000	10,000	
	振込手数料	58,660	60,000	1,340	郵便局払込料負担金など
	小計	324,642	1,080,000	755,358	
事業活動費用	会議費	3,988	200,000	196,012	3部会合同会議湯茶代など
	講師謝礼・交通費	328,000	600,000	272,000	セミナー6回、古文書講座18回など
	会報等郵送料	779,180	1,300,000	520,820	会報6回、案内随時、HP開設・運用費など
	器具備品費	29,247	50,000	20,753	
	消耗品費	295,733	100,000	△195,733	写真代、録音テープ代など
	会報等印刷費	121,380	300,000	178,620	会報6回、案内・募集チラシなど
	会議室使用料	84,250	200,000	115,750	会議室等賃借料
	見学会保険料	0	20,000	20,000	外部見学会(2回)傷害保険料
	部会活動助成金	0	50,000	50,000	自主サークル活動の支援金
	内覧会チケット代金	94,030	350,000	255,970	内覧会6回
	小計	1,735,808	3,170,000	1,434,192	
費用合計		2,060,450	4,250,000	2,189,550	
次年度繰越金		1,685,907	480,007	△1,205,900	
合計		3,746,357	4,730,007	983,650	

(第5号議案)

役員補充選任

平成14年4月30日をもって会計・栗国ゆう子、監事・佐藤扶美子の退任にともない役員の補充選任の結果、平成14年度の執行役員は別表のとおりです。

平成14年度 役員一覧

会長	山本 市郎
副会長	佐山 彪 (兼事務局長)
会計	川島 幸雄
会計	鈴木 克之 [新任]
監事	山下 卓
監事	大谷 善四郎 [役職変更、前運営委員]
運営委員	山口 千恵子 (事業部会長)
運営委員	大松 騏一 (広報部会長)
運営委員	井上 邦夫 (総務部会長) [新任]



江戸東京博物館友の会総会 記念講演要録(2002/5/21)

下町と山の手

江戸東京博物館館長 竹内 誠

「下町と山の手」、これは対照的な呼称として一対になって、いつも使われています。行政地域でもなく、厳密なものでもなく、俗称、通称です。普通、「山の手と下町」といいますが、私が下町育ちですので、ここでは、「下町と山の手」とさせていただきます(笑)。

●340年前の訴状に初見

今日、確かな史料でお示し出来るのは寛文2年(1662)、小川村(今の東京都小平市)で、名主の九郎兵衛が不正をしたらしく、農民たちが奉行所に出した訴状の中に「下町と山の手」の言葉がセットになって出てきています。

この訴状の内容で、私が注目するのは2つあります。まず一つは、江戸から西へ約7里も離れた小さな村でも、「下町だ」「山の手だ」と、江戸時代前期から村人たちが使っていたということです。

もうひとつ大事なのは、作った瓜を2軒の間屋に対して売っていて、そこに「下町間屋」と「山の手間屋」があったということです。どっちの相場が高いか安いかわかるということで、間屋に両天秤をかけながら売るといふ、小川村のお百姓さんの知恵だ、と思いますね。そして、流通市場圏として下町市場と山の手市場があったことさえ、うかがえます。

●浅草、深川は下町か

江戸時代は、銀座・京橋・日本橋・神田が下町でした。限られた狭い範囲を指していました。浅草や深川を、江戸時代は下町とは呼んでいませんでした。

小川頼道著『塵塚談』によりますと、文化文政期に入って、これが徐々に周辺に広がっていったということで、幕末ごろには浅草は下町という概念に入っていたと推定されます。

では、深川は一体いつ下町になったのでしょうか、文献を探してみました。

江戸時代は、深川辺りから永代橋を渡って行くことを、江戸へ行くといい、江戸とは違うという認識をもっていました。

大正末発行の『深川区史』で西村真次氏は、「深川には深川の色彩があって、決して下町に同化しようと深川は思っていない」と記しています。となると、関東大震災(大正12年(1923))後の昭和初期に下町といわれるようになったのではないかと、思うのです。

●現代の範囲とイメージ

「下町」は、戦後(太平洋戦争)、東へ広がり、葛飾・荒川・江戸川まで行って突き当たり、そこが柴又で、典型的な下町となりました。下町のイメージは、「ごみごみした町」「人情」「おみこし・お祭り」「寅さん」——などでしょうか。

一方「山の手」は、JR山手線の内側、牛込・小石川・本郷・四谷が江戸時代の山の手だったのです。明治以降、戦前まで、西へ広がっていき、中野・世田谷・杉並・荻窪までが山の手。戦後は吉祥寺(「山の手ジョージ」といわれた)、今は立川までいっているのでしょう。

山の手イメージは「お屋敷町」「緑」、そうすると田園調布が山の手典型なのではないか。しかし、多摩川を越えることはありません。

「下町」として、連想する地名ベスト30を調べた資料を見ますと、第1位は浅草で以下は、柴又、上野、深川、亀有…、神保町、浅草橋となっています。

このように大きく広がっていることが、おわかりいただけると思います。

●風俗の対比 粋と野暮

風俗については、鹿島萬兵衛著『江

戸の夕栄』によりますと、「山の手は野暮・地味、下町は粋・派手」と対比しています。具体的に2句の川柳で考えてみましょう。

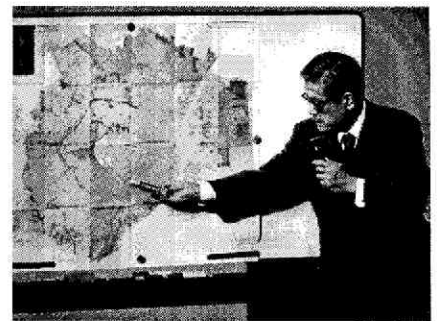
山の手は喰わず 下町まだ聞かず

芭蕉と親交のあった、素堂の句「目には青葉山ほとゝぎす初鯉」を背景に、この川柳を解釈しますと、初夏の風情の違いが見えてきます。

山の手は湯は 女んとて隔てなし

この川柳は寛政時代より以前の句です。すでに下町は男湯女湯と分かれていて、山の手が混浴でした。寛政の改革で、風俗統制を進めた松平定信は、それまで江戸中の銭湯が混浴だったのに対して混浴禁止令を出した、と誤解している人が多いようです。『御触書集成』にその町触が載っています。

また、江戸の女性について、和歌山藩の人は『江戸自慢』で「下町は粋で、山の手は野暮である」とその印象を書いています。九鬼周造著『いき』の構造には「いきとは垢抜けして張りのある色っぽさ」と定義しています。



銀座・京橋・日本橋・神田が、江戸の下町

●向こう三軒両隣に人情

『熙代勝覧(きだいしょうらん)』絵巻に描かれている日本橋・通本町、駿河町入口には、町々に木戸があり、両側が同じ町内、これが両側町の基本形でした。江戸時代は向かい側もわが町で、向こう三軒両隣に下町の人情が生まれる基盤がありました。

来年(2003)は江戸開府400年ということで賑やかになるでしょう。1月には、「大江戸八百八町展」を開催します。

【記録】広報部会・貝森武夫

【企画展】利家とまつ 加賀百万石物語

—前田家と加賀文化—

観覧記

NHKテレビの大河ドラマと連動した企画展「利家とまつ 加賀百万石物語」が4月23日から6月2日まで開催されました。

江戸東京博物館の開館10周年を記念した展示でもあり、前評判は上々。4月22日、開催前夜に行われた友の会特別内覧会も、多くの参加者の熱気でつまれました。

内覧会は午後6時の開場。まず1階ホールロビーで担当の原史彦学芸員から概要の解説があり、次いで会場に移っていくつかの重要展示品ごとに詳しい説明を受けました。

とくに、入口に飾られた「鐘馗図幀」

や、中央の「大鯰尾形兜」などは始めの2週間だけの展示で、あとは入れ替えるとのことで、貴重な文化財に触れられた喜びを大きくしてくれました。

いうまでもなく加賀百万石は、前田利家と妻のまつによって基盤が築かれましたが、展示品のほとんどは3代利常(利家の側室の子で、2代利長の義弟)によって収集されたものとのこと。

彼は農業を基盤とした財政策で富みを築き、素晴らしい文化事業を行いました。利家の時代は戦いに明け暮れた争乱期でしたから、晩年を除いては美術工芸品などの収集どころではなかったでしょう。

テレビドラマでは秀吉との交友関係が中心に描かれていますが、「槍の又左」と呼ばれて合戦のたびごとに武功を上げつづけてきたことが、数々の「合戦図屏風」に描かれた姿などから読み取れます。

興味深かったのは遺言状で、内容は軍事はもちろん、家族や遺産の分配のこと、家臣たちへの対応についてなどが細かく記されていて、利家がすべてに配慮を欠かさなかったバランス感覚の持ち主であったと伺いました。

また、利家やまつ肖像画に触れたことや、数々の加賀文化の美術工芸品の素晴らしさに、時間を忘れてしまいました。

さらに、まつ(芳春院)は晩年の15年間を人質として江戸の藩邸で過ごし、ほかにも加賀前田家のゆかりの地が東京にも多く残されていることを知って、機会を見つけて訪ね歩いてみるのもよいか、と思っています。

【記録】広報部会・岡橋園子

第2回友の会総会 質疑応答の要旨

2002/5/21

【問】講師謝礼と交通費が倍増しているが、支払い基準は。

【答】当館講師への謝礼は決まっている。外部講師についてはランクや居住地などから決めている。

【問】友の会会員数は、3月末で826名が、5月20日現在684名となっている。この間に140名も減少したのか。

【答】昨年3-4月に入会した会員のうち、更新・継続は約60%にとどまった。更新率を高めることが、新会員獲得と同じく今後の重要な課題と認識している。

【問】更新案内は1度だけではなく、再度、案内を送ったかどうか。

【答】実施済みだが、今後も対応したい。

【問】多くの退会者が出ているようだが、

辞めた理由などを調査したらどうか。

【答】費用対効果の問題があるので、今後の検討課題としたい。

【問】「ちりめん講座」など創作体験の講座は、アンコール開催もあるか。

【答】応募者は少数だが、参加者には好評で、男性も参加しやすい企画を考えていきたい。

【問】事業開催日の多くが水曜日と金曜日に設定されていて、仕事を持っている人は参加できない。会員を増やすには、若い人が参加しやすい曜日や時間、企画などを考えては。

【答】事業部会も同じ考えである。しかし、講師の都合や、会場の確保がまず優先されるのも現実である。より多くの会員に参加していただきたいので、課題としたい。

【問】古文書講座は、あちこちで開かれている。なぜ友の会でもやるのか。

【答】きわめてニーズが高い。会員希望に沿った企画で、開催していきたい。

【問】予算案の内覧会チケット代は、どのような計算に基づいているのか

【答】内覧会の参加者には、1人500円を支払っていただき、残りを会が負担することになっている。年間6回、延べ470人の参加を見込んだ。

【問】会報の印刷費や郵送料が前年度より増えている理由は。

【答】印刷費は第3号までは館の協力を得たが、以降はすべて会から外部委託。会報以外に案内やチラシの印刷代も含まれている。館のニュースやお知らせなどをタイムリーに出したいので、増額になった。また、ホームページの立上げ費用も見込んでいた。

【問】会議費が大幅に増えているが、その理由は。

【答】会議や発送作業のときボランティアで仕事にあたってくださる多くの方々に、お茶ぐらいは出したい。また、3部会合同の会議を開いて意見交換をするなど、連携を深めていきたい。

第7回「幕府の仕組みと変遷」

講師:村上 直(法政大学文学部名誉教授)

開催日:7月30日(火) 14:00~15:30 ・申込締切:7月15日(月)必着

・会場:江戸東京博物館・1階会議室

・定員:100名(会員本人に限る) ・参加費:200円(当日払い)

動乱の中世から「徳川の平和」の近世に移行する中で、幕藩体制の中核に位置したのは江戸幕府です。幕府は初代家康により開設され、265年にわたり存続しましたが、その間、政治組

織は3代家光の治世に整備され、8代吉宗の改革によって完成します。

武家政治史上、高度に組織された幕府の仕組みが、どのように制度疲労を克服しながら政権を維持していった

か、幕閣と実務機関の連携や遠国奉行・代官の地方行政に視点を据えながら考察したいと思います。

講師略歴:むらかみ・ただし

1925年東京生まれ。東京都立大学大学院修士課程修了。駒沢女子短期大学教授を経て、法政大学文学部教授。現在は名誉教授。文学博士。編著書に『日本近世史研究事典』『幕藩制社会の地域的展開』『江戸幕府の代官群像』『江戸幕府の政治と人物』ほかがある。

特別内覧会

開館10周年記念

ドイツ・ヒルデスハイム博物館所蔵

【企画展】 古代エジプト展 ~永遠の美~

開催日時 7月19日(金)18:00~19:30

(受付開始 17:30)

会場 江戸博・1階ホール/企画展示室

参加費 500円(当日払い)

申込締切 7月10日(水)必着(会員限定)

*開催時刻変更の場合は申込者に連絡します。

申込受付中

講座受講
申込方法

▼申込方法:

往復ハガキに《開催日「テーマ名」応募》と、

①会員番号②氏名③〒住所④電話番号

⑤会報、友の会の感想・要望、を明記。

・各講座ごと、会員本人に限り、1人1通。

・「返信用の〒あて先」も必ず記入ください。

▼申込先:130-0015東京都墨田区横綱1-4-1

江戸東京博物館友の会事務局あて

▼締め切り:各講座案内を参照(必着)

申込み多数の場合は抽選

会員優待のお知らせ

友の会会員の皆さんにお贈りする、会員ならではの特別優待サービスです。江戸東京博物館で、企画展やイベント観賞、ショッピングをお楽しみください。

【企画展】 開館10周年記念

発掘された日本列島2002展

—新発見考古速報—

好評開催中! 7月14日(日)まで

・月曜日休館

会員: 一般250円、65歳以上120円、大専門生200円

同行者: 一般400円、65歳以上200円、大専門生320円

活動に参加しよう 各部会員を募集!

事業部会:事業の企画・運営、広報部会:「えど友」の編集・PR活動、総務部会:各種案内の発送・受付

ハガキに、希望部会名、会員番号、〒住所、氏名、電話、応募事由、を記載して、事務局までご応募ください。



次号は、9月1日発行の予定です。

江戸東京博物館友の会
会報「えど友」第8号

発行日=平成14年(2002)7月1日

発行=江戸東京博物館友の会事務局

130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1

Tel. 03-3626-9910

編集・制作=友の会広報部会

発行・編集人/佐山彪(事務局長) 編集主幹/大松駿一

編集/岡橋園子、菅沼和男、佐藤幸彦、貝森武夫

レイアウト/巻瀨彰